

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（6月中下旬）

1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は平年より低い状況でした（図1）。梅雨時期は湿度が高くなり、発生しやすい条件となるため、換気を十分に行ってください。

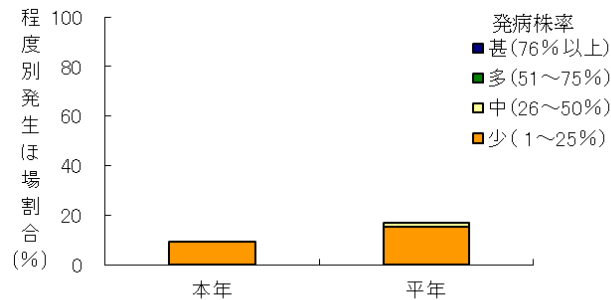


図1 灰色かび病の発生状況

2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。梅雨時期は湿度が高くなり、発生しやすい条件となるため注意してください。葉かび病抵抗性品種もありますが、これらの品種を侵す菌のレースが存在しますので、抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。なお、葉かび病と病徴が類似しているすすかび病を確認して薬剤を選択してください。

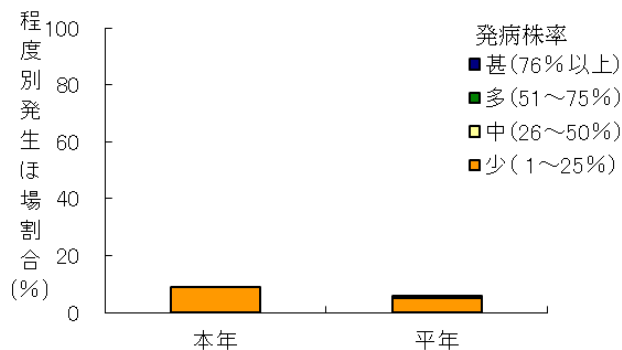


図2 葉かび病の発生状況

3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図3）。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

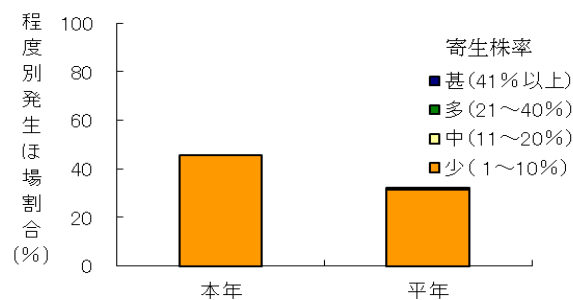


図3 アブラムシ類の発生状況

4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年より低い状況でした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介するので、注意してください（病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」をご覧ください）。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

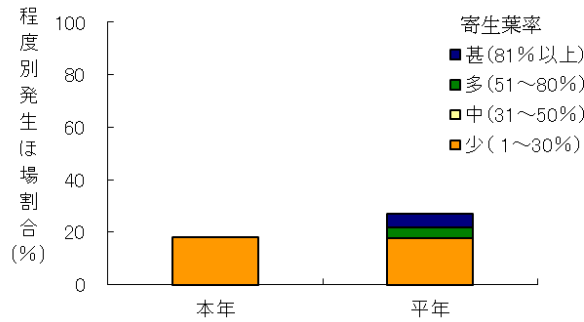


図4 コナジラミ類の発生状況

5 アザミウマ類

巡回調査では、アザミウマ類による被害果実は確認されませんでした（図5）。防虫ネットの設置が定着していますが、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施してください。また、アザミウマ類は、TSWV などのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

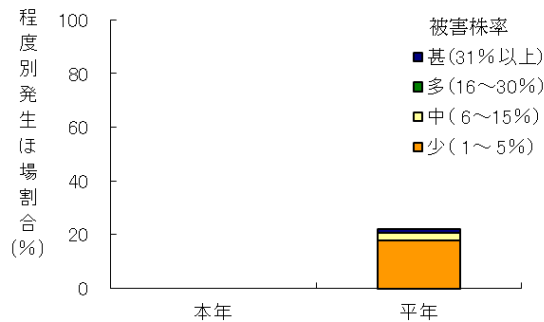


図5 アザミウマ類による被害果実の発生状況

6 ハモグリバエ類

巡回調査では、ハモグリバエ類による被害株は確認されませんでした（図6）。まん延すると防除が困難となるので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

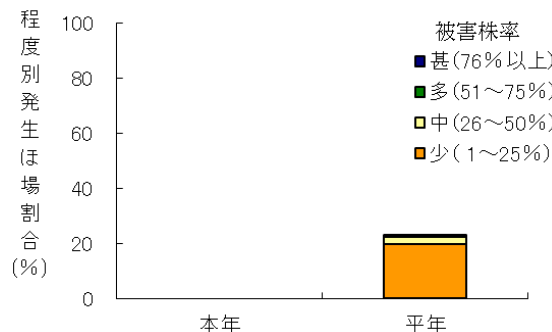


図6 ハモグリバエ類の発生状況

7 オオタバコガ

巡回調査では、寄生は確認されませんでした。フェロモントラップ調査では、誘殺が確認されています(図7)。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

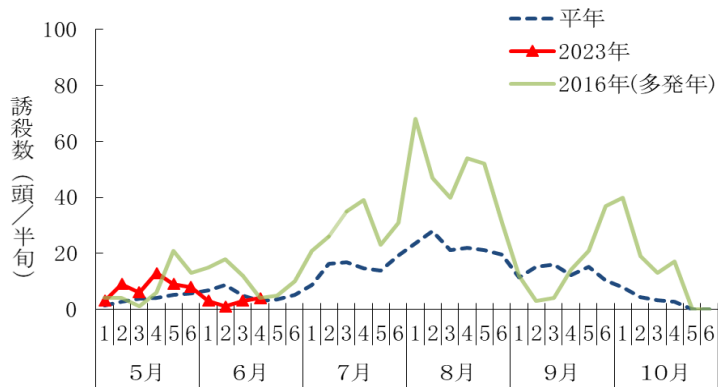


図7 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)



写真1 果実を食害するオオタバコガ

注意が必要な病害虫

■ トマトかいよう病

本年も会津地域での発生が確認されています。本病は種子や土壌中の残渣に生存している病原細菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。発病が疑われる株は管理作業を後回しにし、作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害拡大を防ぐようにしてください。万が一、ほ場で発生した場合は、発病株を速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。昨年発生しているほ場では特に注意してください。



写真2 かいよう病被害葉

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp